

守山学区わがまちミーティング 事前アンケート集計結果

調査概要

- 1 調査対象
令和3年12月16日時点で住民基本台帳に登録されている18歳以上の守山学区民1,550人
- 2 抽出方法
無作為抽出
- 3 配布方法
令和4年2月11日開催の「守山学区わがまちミーティング」案内文と同封し郵送配布
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、当日の開催は中止
- 4 回収方法
インターネットでの回答もしくは返信用封筒にて返送
- 5 調査日
令和4年1月11日から1月21日まで
- 6 回収数
422件（郵送回答255件、インターネット回答167件）
- 7 備考
構成比をパーセントで表し、小数点以下第1位を四捨五入しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。

アンケート内容

わがまちミーティング開催にかかるアンケート

当てはまるものに○、記述のものに関してはカッコ内にご記入ください。

◆あなたについてお聞きます。

問1. 年齢

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上

問2. お住まいの自治会 ※以下16自治会が守山学区の自治会になります。

- ①今宿 ②泉町 ③本町 ④梅田町 ⑤勝部 ⑥焰魔堂 ⑦千代 ⑧阿村
⑨伊勢 ⑩二町 ⑪古高 ⑫大門 ⑬横江 ⑭弥生の里 ⑮大鳥 ⑯サム守山

問3. 守山学区での居住年数

- ①10年未満 ②10～20年未満 ③20～30年未満
④30～40年未満 ⑤40～50年未満 ⑥50年以上

問4. 現在、会社等で勤務していますか（市内・市外問わず、雇用形態に関わらずお答えください）

- ①勤務している ②勤務していない

◆地域のつながりについてお聞きます。

問5. あなたがお住まいの地域には、地域のつながり（近所づきあいや住民同士の助け合い）はあると感じますか。

- ①とても感じる ②少し感じる ③どちらともいえない ④あまり感じない ⑤感じない

問6. あなたは、普段の暮らしの中で、地域のつながりは必要だと思いますか。

- ①必要だと思う ②どちらかといえば必要 ③どちらともいえない
④どちらかといえば必要ない ⑤必要ない

問7. （問6で①または②と答えた方）どのような理由から必要だと思いますか。次から3つまであげてください。

- ①災害等のいざという時の助け合い ②防災・防火活動 ③防犯・交通安全活動
④一人暮らし等の高齢者の見守り ⑤地域での子育て支援 ⑥祭りなどの行事や伝統文化の継承
⑦ごみ集積所・草刈り・清掃など地域環境の維持・改善
⑧職場・学校以外の交友関係の構築や居場所づくり
⑨生活上の悩みや困りごとの相談 ⑩住民の暮らしのニーズのとりまとめ
⑪その他（ ）

問8. （問6で①または②と答えた方）今後、地域のつながりを守り、育むためには、どんなことが必要だと思いますか。また、どんな工夫や仕掛けが考えられますか。あなたのご意見をお聞かせください。

（自由記述）

ご協力ありがとうございました！

目次

<単純集計（問1～7の選択肢への回答数と割合）の結果>

問1（年齢）	・・・	P4
問2（居住自治会）	・・・	P4
問3（守山学区での居住年数）	・・・	P4
問4（勤務しているか）	・・・	P5
問5（地域のつながりがあると感じるか）	・・・	P5
問6（地域のつながりは必要だと思うか）	・・・	P5
問7（どのような理由から必要だと思うか）	・・・	P6

<クロス集計により分析の結果>

問3（守山学区での居住年数）の回答の分析

問3×問1（年齢）	・・・	P7
-----------	-----	----

問5（地域のつながりがあると感じるか）の回答の分析

問5×問1（年齢）	・・・	P8
問5×問3（守山学区での居住年数）	・・・	P9
問5×問4（勤務しているか）	・・・	P10
問5×問6（地域のつながりは必要だと思うか）	・・・	P11
問5×問7（どのような理由から必要だと思うか）	・・・	P12

問6（地域のつながりは必要だと思うか）の回答の分析

問6×問1（年齢）	・・・	P14
問6×問3（守山学区での居住年数）	・・・	P15
問6×問4（勤務しているか）	・・・	P16

問7：（どのような理由から必要だと思うか）の回答の分析

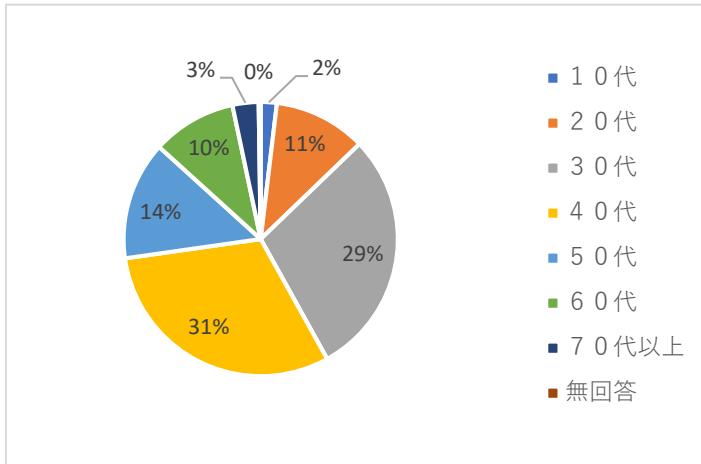
問7×問1（年齢）	・・・	P17
問7×問3（守山学区での居住年数）	・・・	P19
問7×問4（勤務しているか）	・・・	P20

<問8の回答>

問8（今後、地域のつながりを守り、育むためには、どんなことが必要だと思うか。また、どんな工夫や仕掛けが考えられるか）	・・・	P21
--	-----	-----

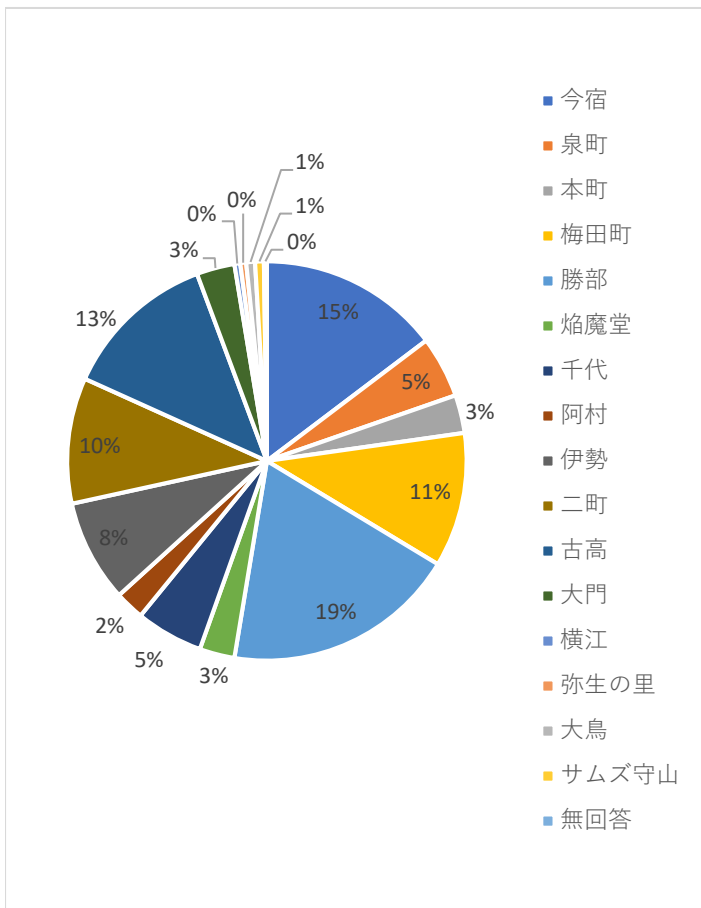
〈単純集計（問1～7の選択肢への回答数と割合）の結果〉

口問1. 年齢



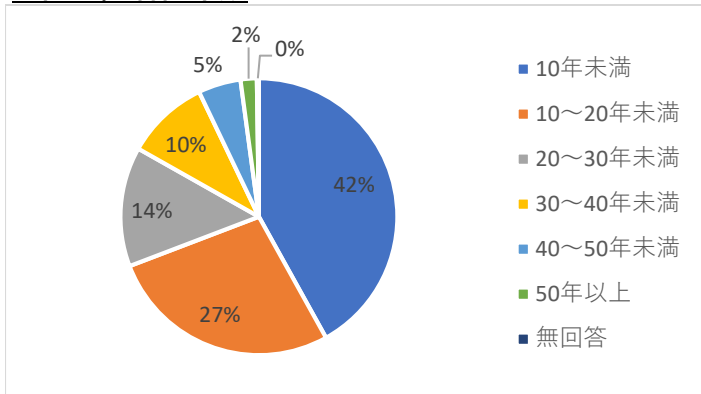
項目	回答数	割合	
1	10代	8	2%
2	20代	46	11%
3	30代	123	29%
4	40代	130	31%
5	50代	59	14%
6	60代	42	10%
7	70代以上	13	3%
8	無回答	1	0%
合計		422	100%

口問2. お住まい



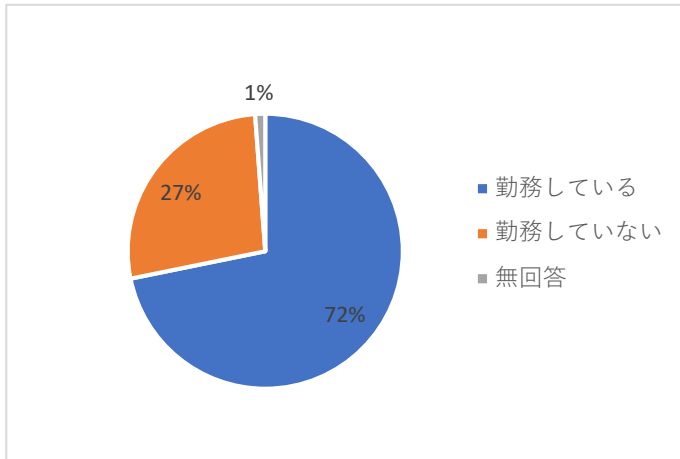
項目	回答数	割合	
1	今宿	62	15%
2	泉町	21	5%
3	本町	13	3%
4	梅田町	46	11%
5	勝部	80	19%
6	焰魔堂	12	3%
7	千代	23	6%
8	阿村	10	3%
9	伊勢	35	9%
10	二町	43	10%
11	古高	53	13%
12	大門	13	3%
13	横江	2	0%
14	弥生の里	2	0%
15	大鳥	3	0%
16	サムズ守山	3	0%
17	無回答	1	0%
合計		422	100%

口問3. 居住年数



項目	回答数	割合	
1	10年未満	177	42%
2	10～20年未満	115	27%
3	20～30年未満	59	14%
4	30～40年未満	41	10%
5	40～50年未満	21	5%
6	50年以上	8	2%
7	無回答	1	0%
合計		422	100%

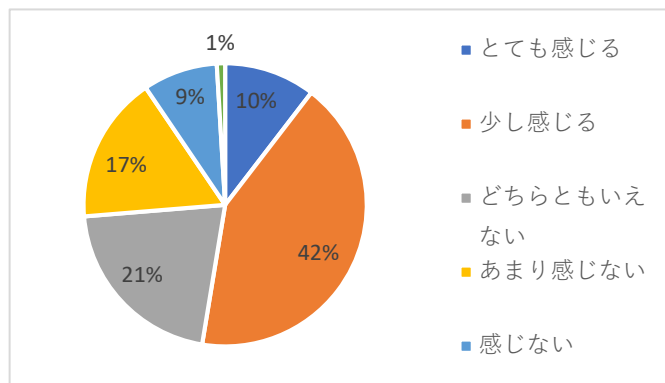
口問4. 勤務の有無



項目	回答数	割合
1 勤務している	303	72%
2 勤務していない	114	27%
3 無回答	5	1%
合計	422	100%

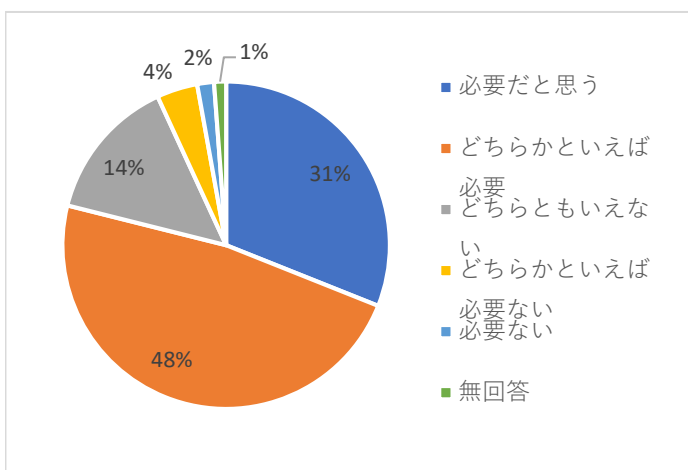
口問5. あなたがお住まいの地域には、地域つながり

(近所づきあいや住民同士の助け合い) はあると感じますか。



項目	回答数	割合
1 とても感じる	44	10%
2 少し感じる	178	42%
3 どちらともいえない	89	21%
4 あまり感じない	71	17%
5 感じない	36	9%
6 無回答	4	1%
合計	422	100%

口問6. あなたは、普段の暮らしの中で、地域のつながりは必要だと思いますか。

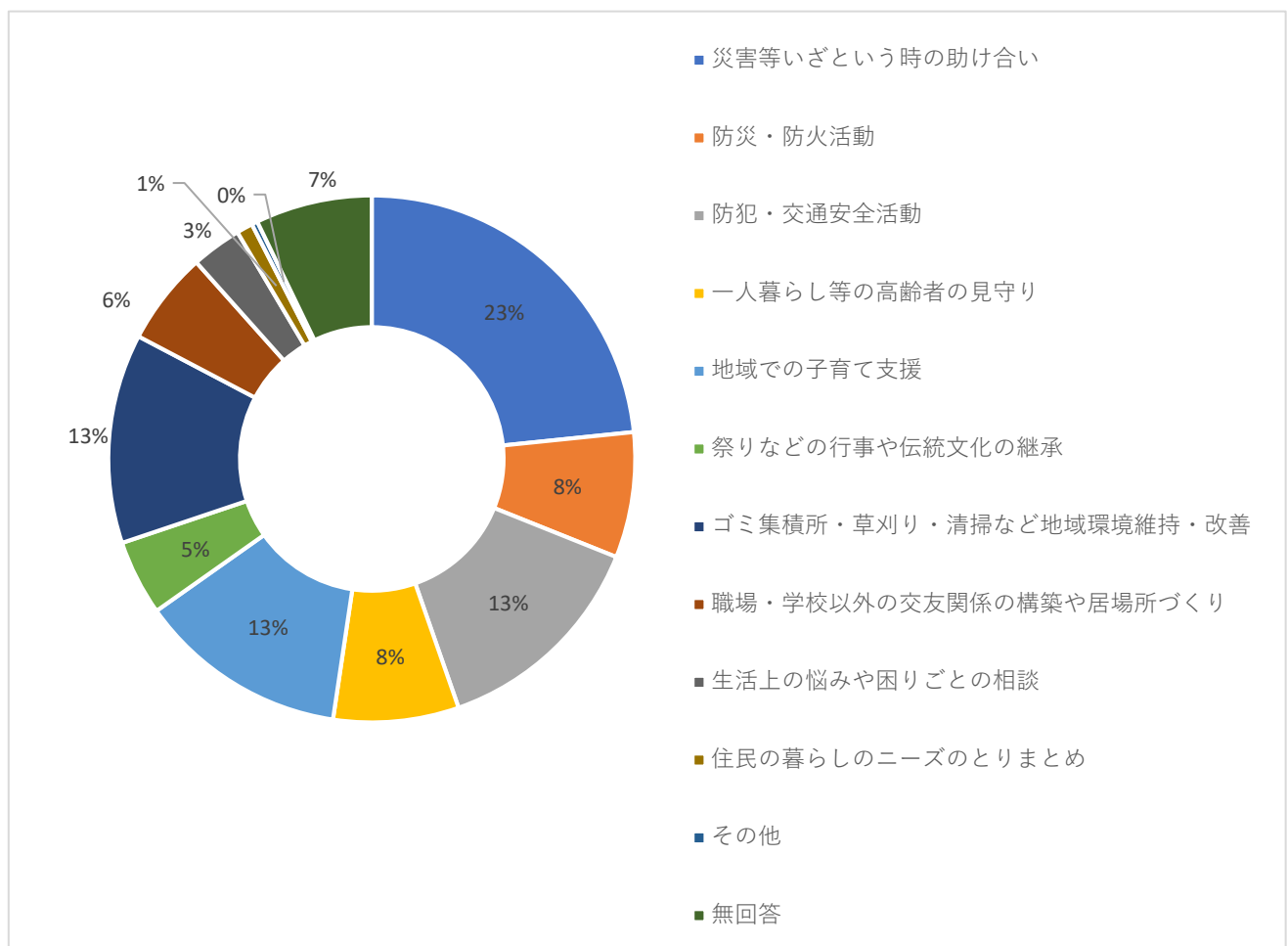


項目	回答数	割合
1 必要だと思う	131	31%
2 どちらかといえば必要	202	48%
3 どちらともいえない	60	14%
4 どちらかといえば必要ない	17	4%
5 必要ない	7	2%
6 無回答	5	1%
合計	422	100%

口問7. (問6で①または②と答えた方)

どのような理由から必要だと思いますか。次から3つまで上げてください。

	項目	回答数	割合
1	災害等いざという時の助け合い	258	23%
2	防災・防火活動	85	8%
3	防犯・交通安全活動	150	14%
4	一人暮らし等の高齢者の見守り	85	8%
5	地域での子育て支援	142	13%
6	祭りなどの行事や伝統文化の継承	51	4%
7	ゴミ集積所・草刈り・清掃など地域環境維持・改善	142	13%
8	職場・学校以外の交友関係の構築や居場所づくり	63	6%
9	生活上の悩みや困りごとの相談	34	3%
10	住民の暮らしのニーズのとりまとめ	11	1%
11	その他	4	0%
12	無回答	79	7%
合計		1104	100%

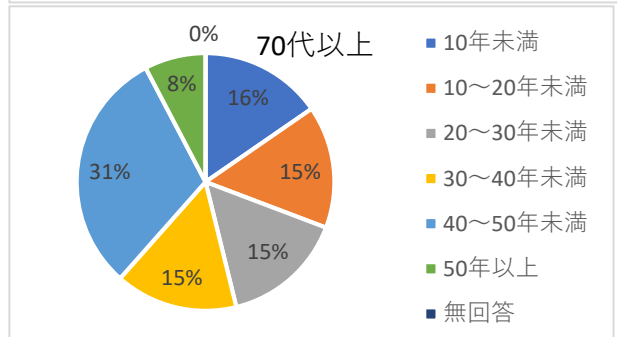
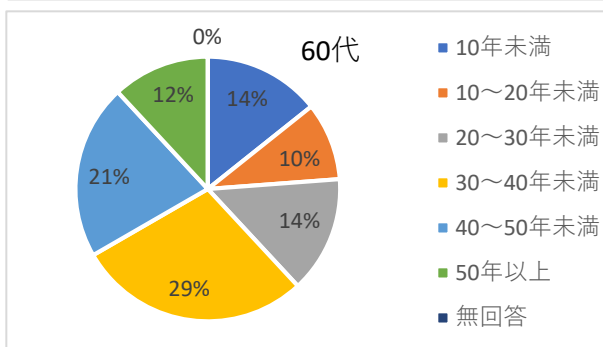
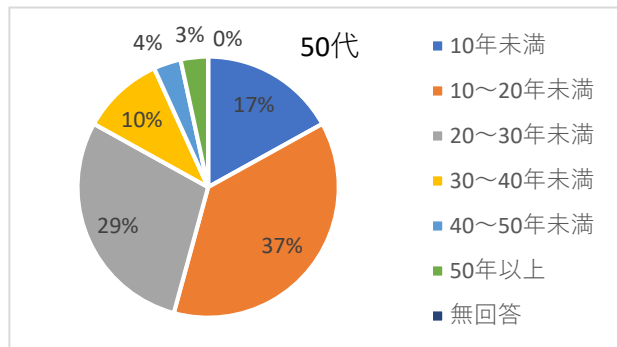
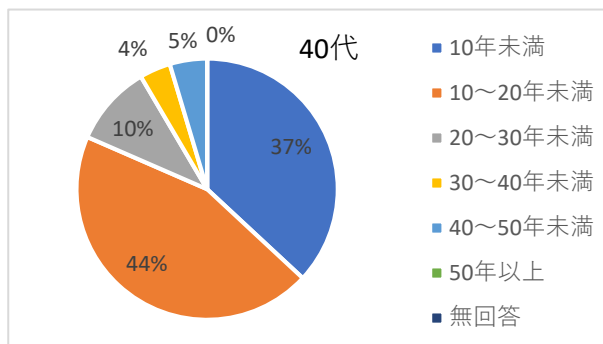
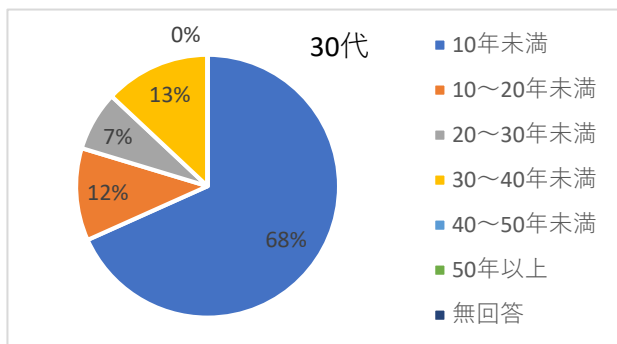
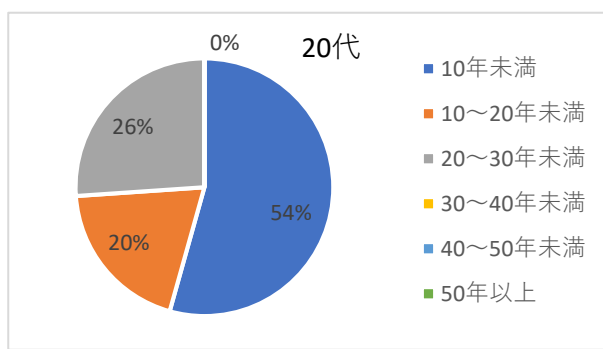
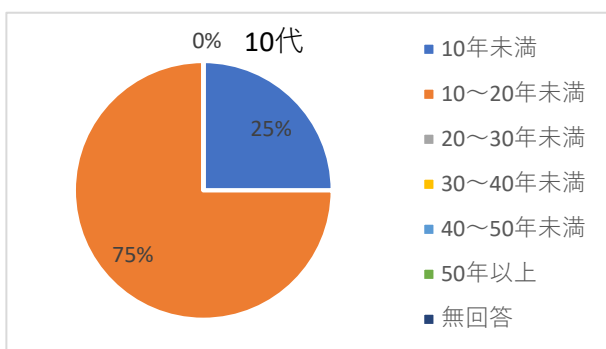


〈クロス集計の結果〉

口問3（守山学区での居住年数）の回答をクロス集計により分析

問3：守山学区での居住年数×問1：年齢

問1 \ 問3	10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40～50年未満	50年以上	無回答	合計
10代	2	6	0	0	0	0	0	8
20代	25	9	12	0	0	0	0	46
30代	84	14	9	16	0	0	0	123
40代	48	58	13	5	6	0	0	130
50代	10	22	17	6	2	2	0	59
60代	6	4	6	12	9	5	0	42
70代以上	2	2	2	2	4	1	0	13
無回答	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	177	115	59	41	21	8	1	422

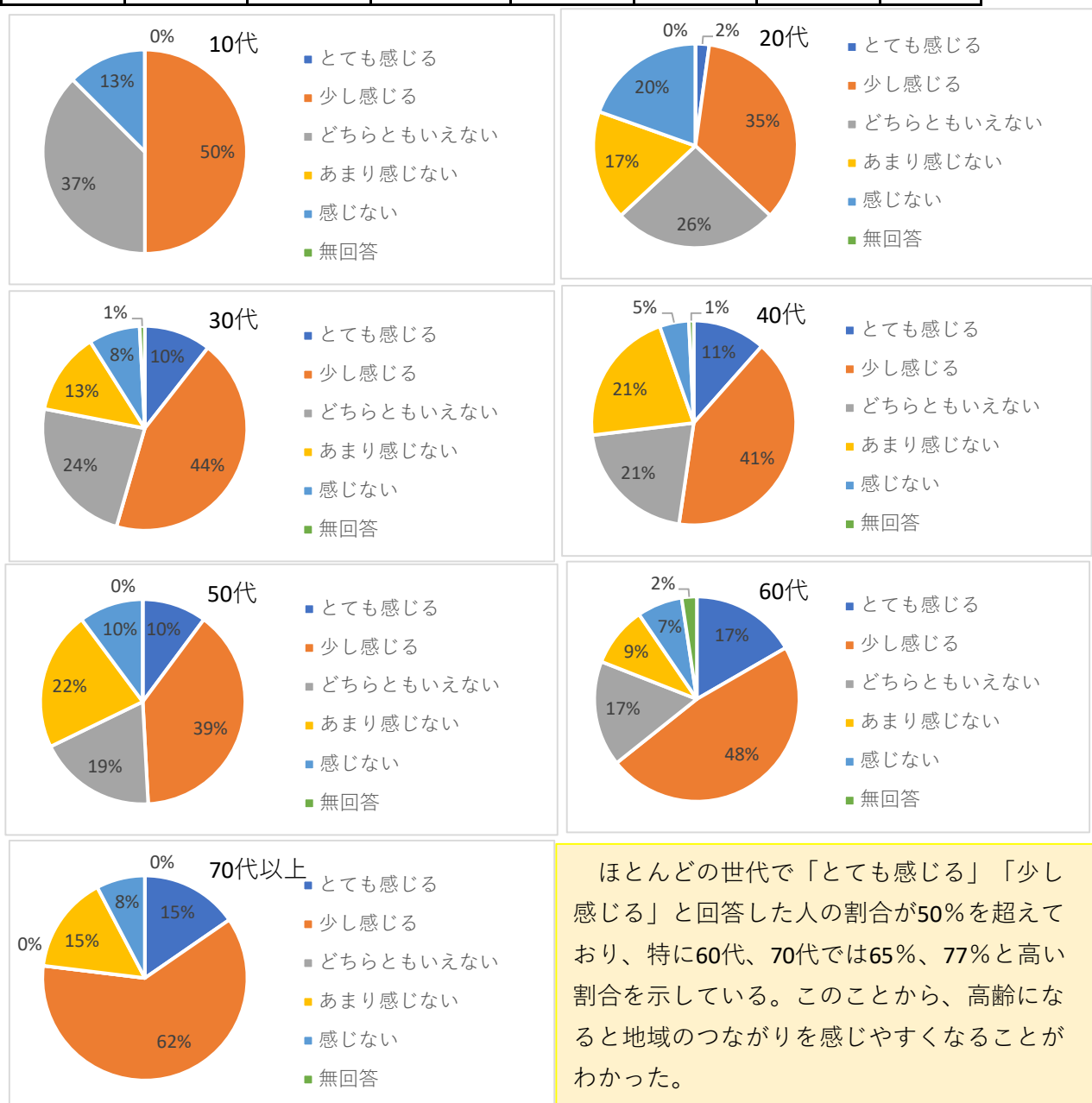


全体的に見て居住年数が10年未満と10～20年未満の人の割合が高い。
さらに、生まれてからずっと守山に住んでいる人の割合は10代から50代にかけてどんどん減り、50代に関しては3%と低い割合となっている。

口問5（地域のつながりがあると感じますか。）の回答をクロス集計により分析

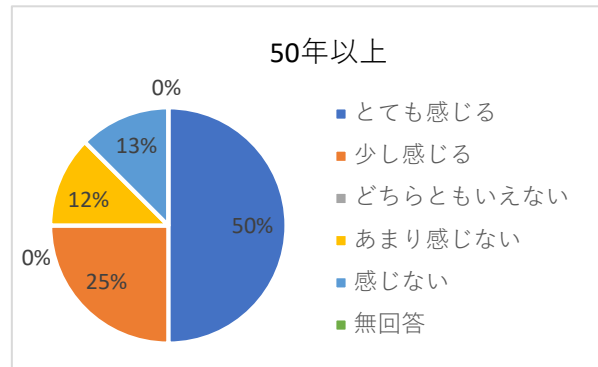
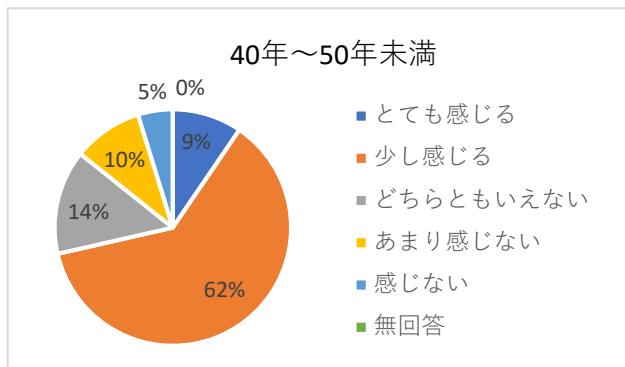
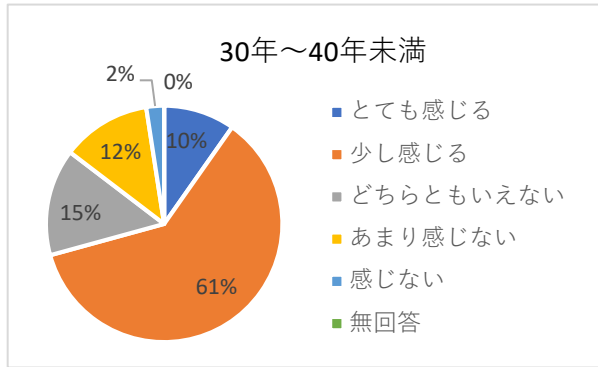
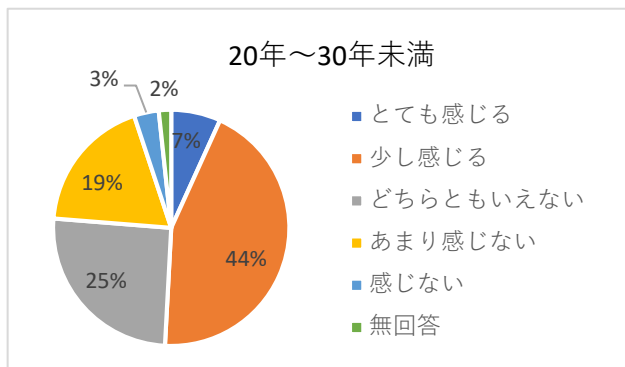
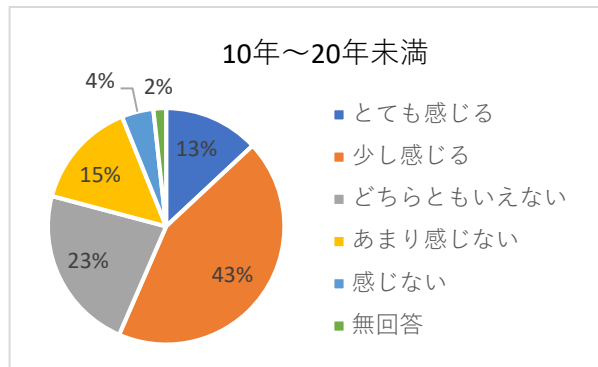
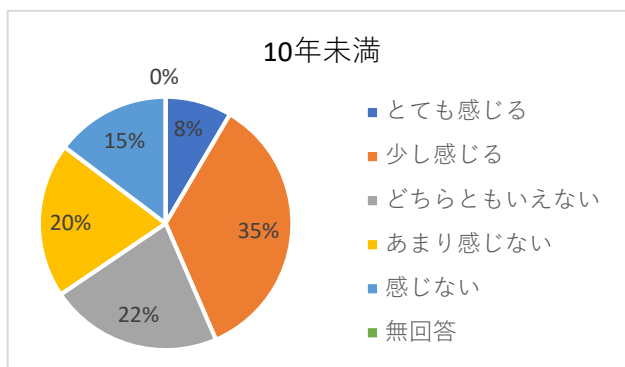
口問5：地域のつながりがあると感じますか×問1：年齢

問5 問1	とても感じる	少し感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	無回答	合計
10代	0	4	3	0	1	0	8
20代	1	16	12	8	9	0	46
30代	13	54	29	16	10	1	123
40代	15	53	27	28	6	1	130
50代	6	23	11	13	6	0	59
60代	7	20	7	4	3	1	42
70代以上	2	8	0	2	1	0	13
無回答	0	0	0	0	0	1	1
合計	44	178	89	71	36	4	422



問5：地域のつながりがあると感じるか×問3：居住年数

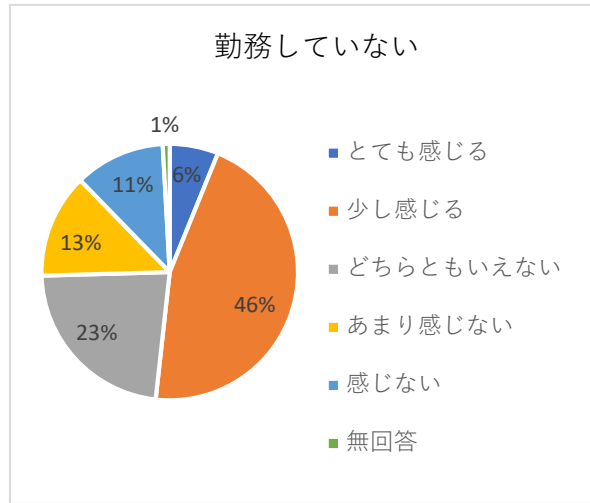
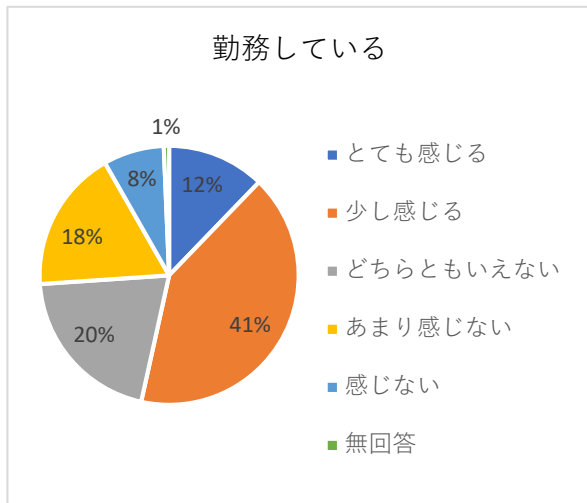
問3 \ 問5	とても感じる	少し感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	無回答	合計
10年未満	15	62	39	35	26	0	177
10～20年未満	15	50	26	17	5	2	115
20～30年未満	4	26	15	11	2	1	59
30～40年未満	4	25	6	5	1	0	41
40～50年未満	2	13	3	2	1	0	21
50年以上	4	2	0	1	1	0	8
無回答	0	0	0	0	0	1	1
合計	44	178	89	71	36	4	422



ほとんどの居住年数の区分で地域のつながりについて「とても感じる」「少し感じる」と回答した人の割合が50%を超えている。また、居住年数が増えるにつれてその割合が増えており、50年以上の区分に関しては75%と高い割合を占めている。

問5：地域のつながりがあると感じるか×問4：勤務していますか

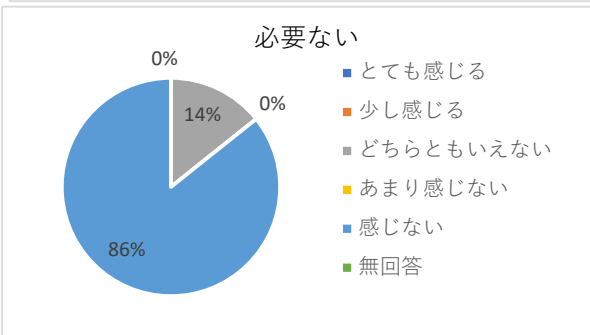
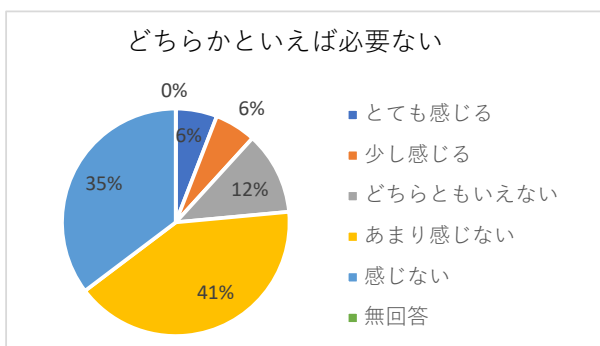
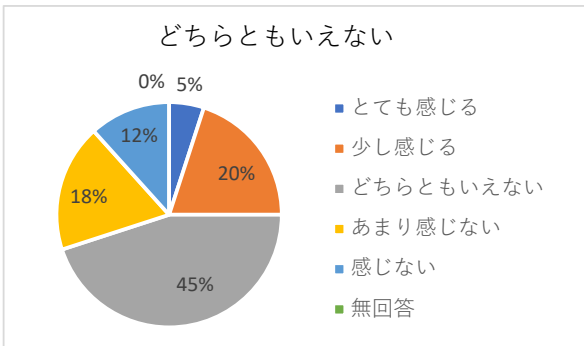
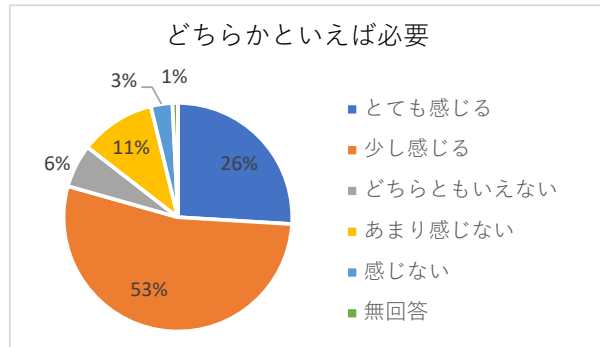
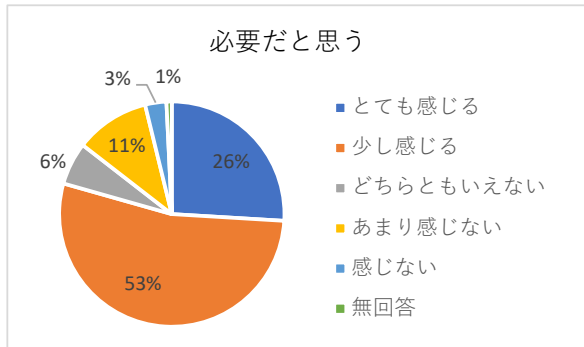
問4 \ 問5	とても感じる	少し感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	無回答	合計
勤務している	37	125	62	54	23	2	303
勤務していない	7	52	26	15	13	1	114
無回答	0	1	1	2	0	1	5
合計	44	178	89	71	36	4	422



どちらのグラフも「とても感じる」「少し感じる」と答えた人が50%を超えていた。勤務の有無について回答がほとんど同じような割合となったため、勤務の有無が地域のつながりを感じることに影響を及ぼすことはないことがわかった。

問5：地域のつながりがあると感じるか×問6：地域のつながりは必要だと思うか

問6 \ 問5	とても感じる	少し感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	無回答	合計
必要だと思う	34	70	8	14	4	1	131
どちらかといえば必要	6	95	51	37	12	1	202
どちらともいえない	3	12	27	11	7	0	60
どちらかといえば必要ない	1	1	2	7	6	0	17
必要ない	0	0	1	0	6	0	7
無回答	0	0	0	2	1	2	5
合計	44	178	89	71	36	4	422



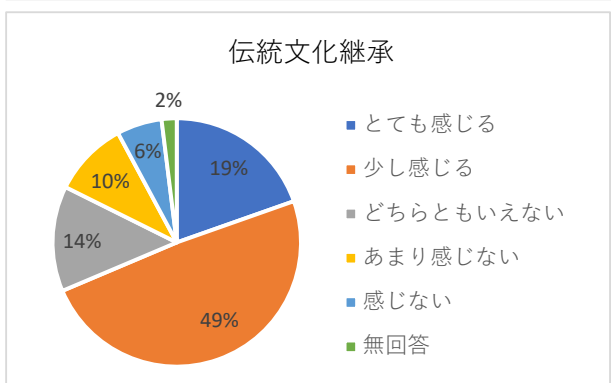
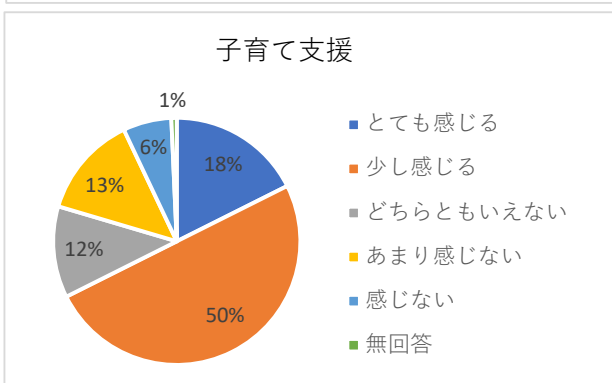
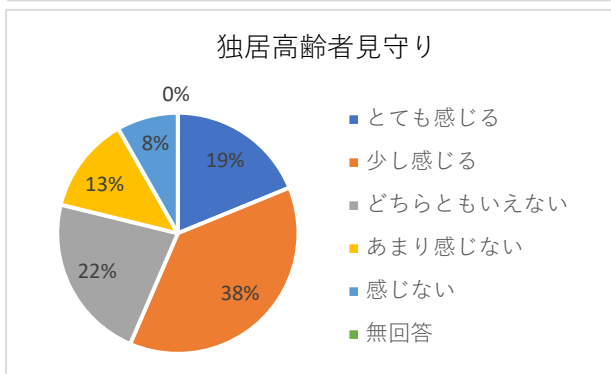
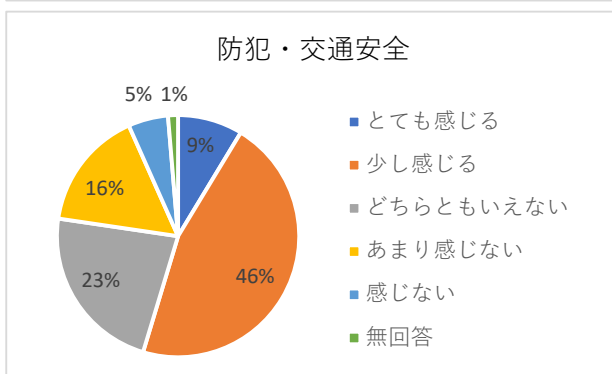
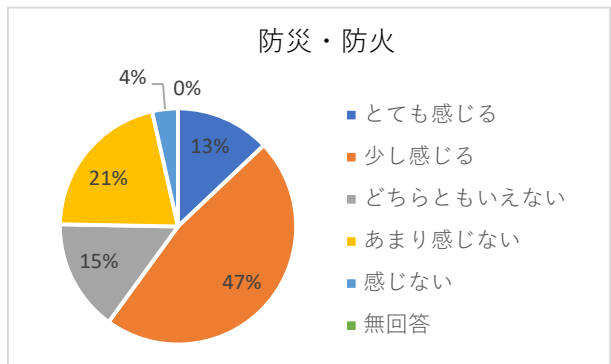
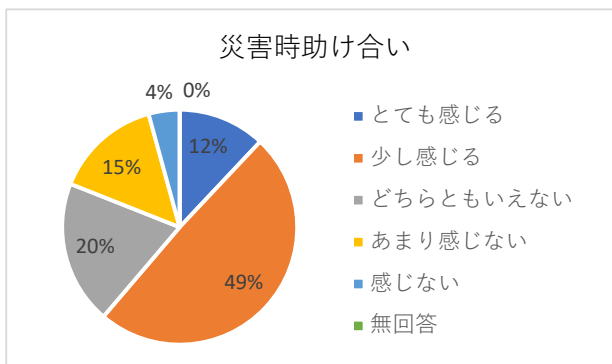
地域のつながりを「とても感じる」「少し感じる」と答えた人の割合は、地域のつながりは「必要だと思う」と答えた人が79%、「どちらかといえば必要」と答えた人が79%と高い割合を占めたが、「どちらともいえない」と答えた人が25%、「どちらかといえば必要ない」と答えた人が12%であった。

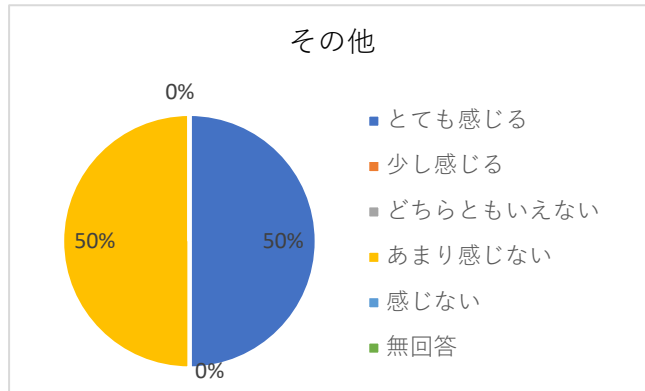
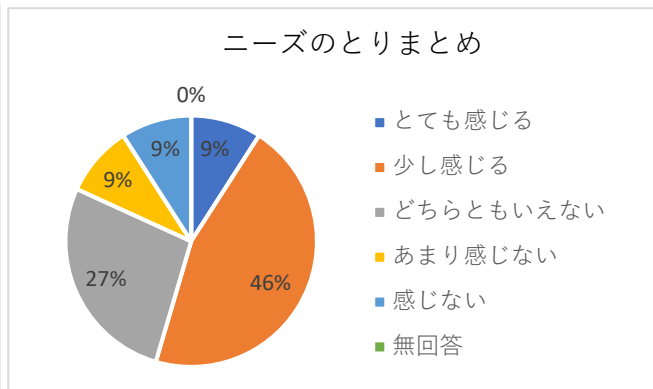
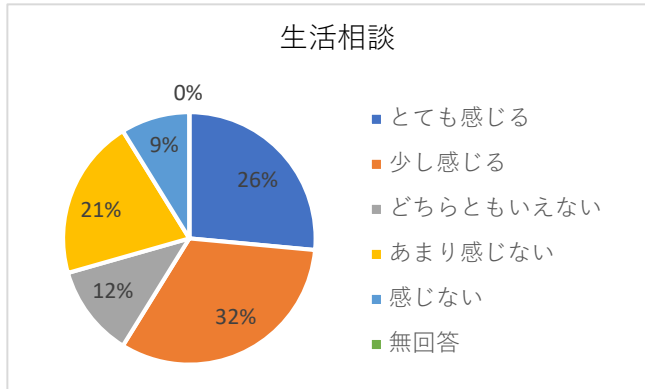
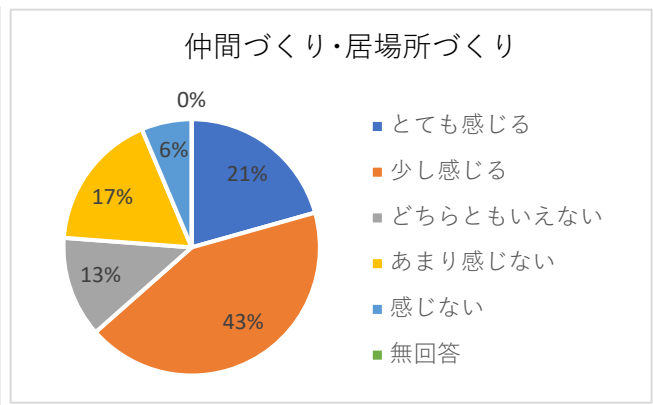
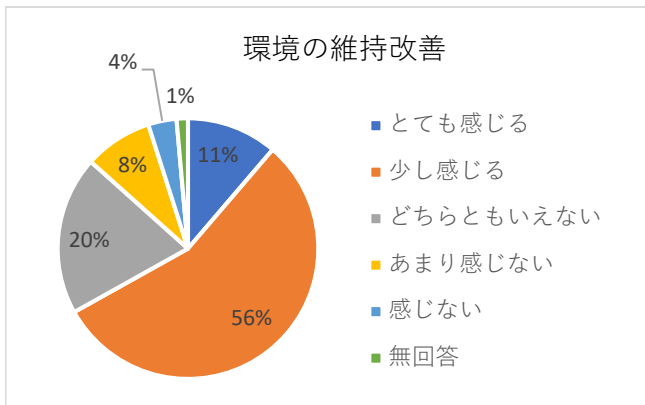
一方、地域のつながりを「あまり感じない」「感じない」と答えた人の割合は「どちらともいえない」「どちらかといえば必要ない」と答えた人の中で30%、76%という結果になった。

このことから、地域のつながりが必要であると考えている人ほど、地域のつながりを感じている割合が高い傾向があることがわかった。

口問5：地域のつながりがあると感じるか×問7：必要だと考える理由

問7 \ 問5	とても感じる	少し感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない	無回答	合計
災害時助け合い	31	127	51	38	11	0	258
防災・防火	11	40	13	18	3	0	85
防犯・交通安全	13	69	34	24	8	2	150
独居高齢者見守り	16	32	19	11	7	0	85
子育て支援	25	71	17	19	9	1	142
伝統文化継承	10	25	7	5	3	1	51
環境の維持改善	16	79	28	12	5	2	142
仲間づくり・居場所づくり	13	27	8	11	4	0	63
生活相談	9	11	4	7	3	0	34
ニーズの取りまとめ	1	5	3	1	1	0	11
その他	2	0	0	2	0	0	4
無回答	2	14	25	19	17	2	79
合計	149	500	209	167	71	8	1,104





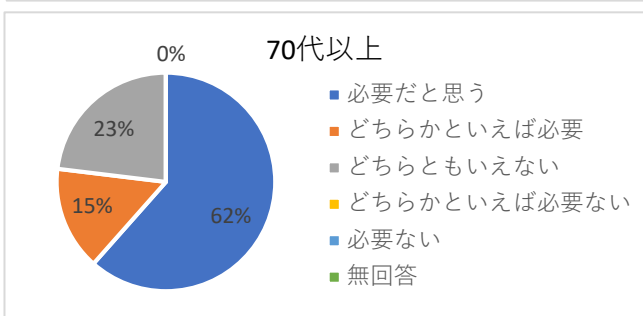
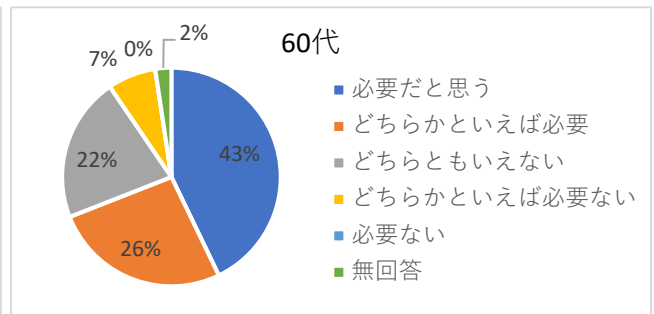
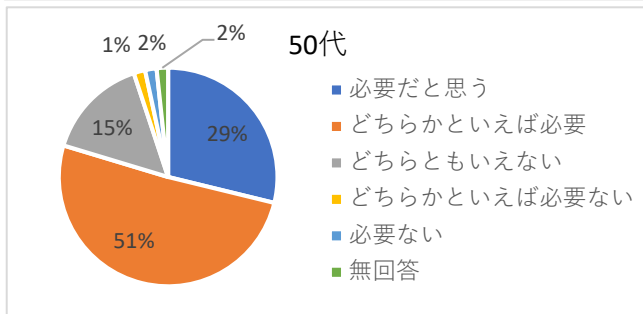
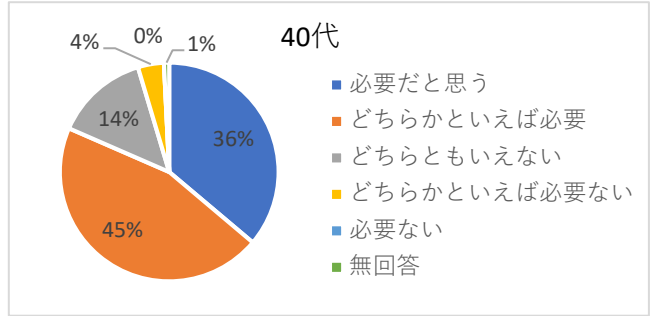
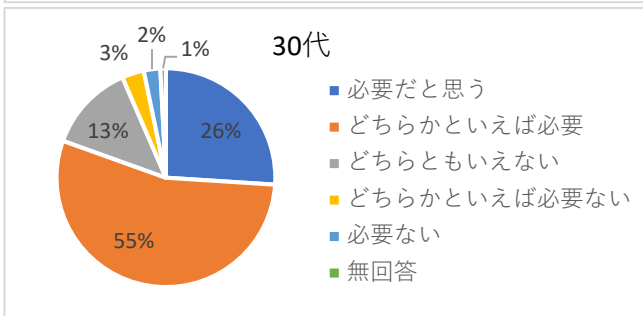
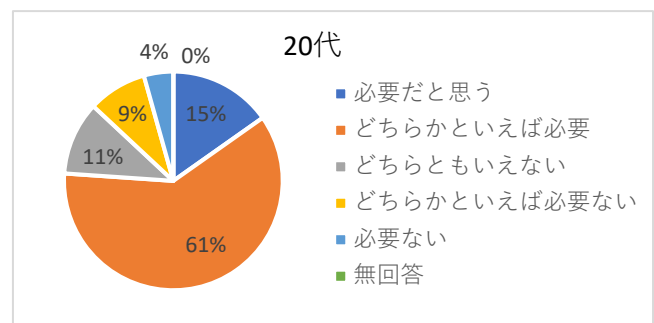
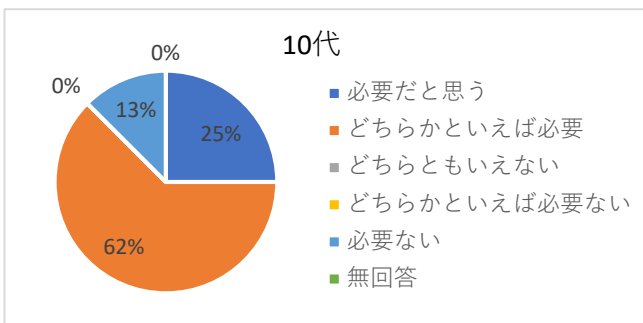
「防災・防火」「生活相談」を選択した人たちのうち、地域のつながりを「あまり感じない」「感じない」と答えた人の割合が25%、30%と他の選択肢より割合が比較的高くなっていた。

一方、ほとんどの選択肢で地域のつながりを「とても感じる」「少し感じる」と答えた人の割合が60%を超えていた。

口問6（地域のつながりは必要だと思うか）の回答をクロス集計により分析

問6：地域のつながりは必要だと思うか×問1：年齢

問6 問1	必要だと思う	どちらかといえば必要	どちらとも いけない	どちらかとい えば必要ない	必要ない	無回答	合計
10代	2	5	0	0	1	0	8
20代	7	28	5	4	2	0	46
30代	32	67	16	4	3	1	123
40代	47	59	18	5	0	1	130
50代	17	30	9	1	1	1	59
60代	18	11	9	3	0	1	42
70代以上	8	2	3	0	0	0	13
無回答	0	0	0	0	0	1	1
合計	131	202	60	17	7	5	422

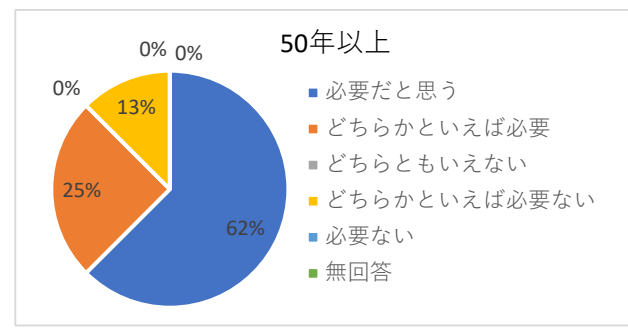
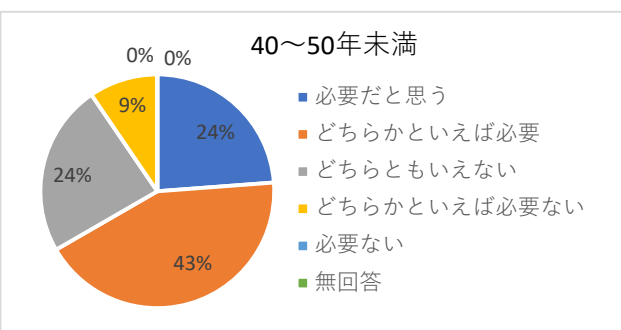
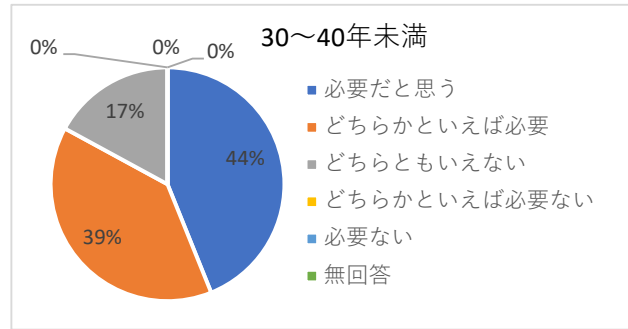
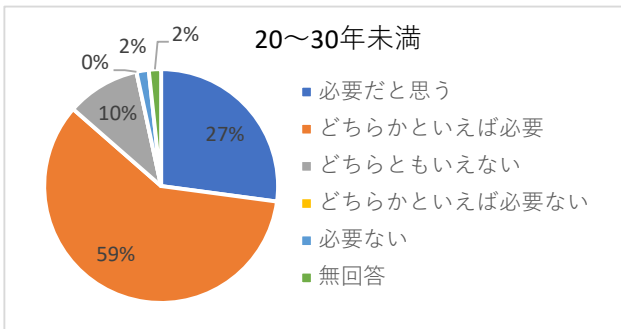
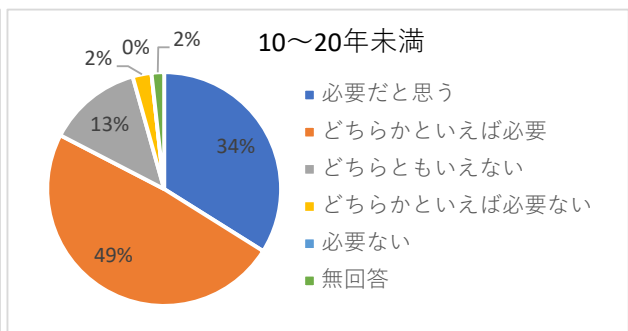
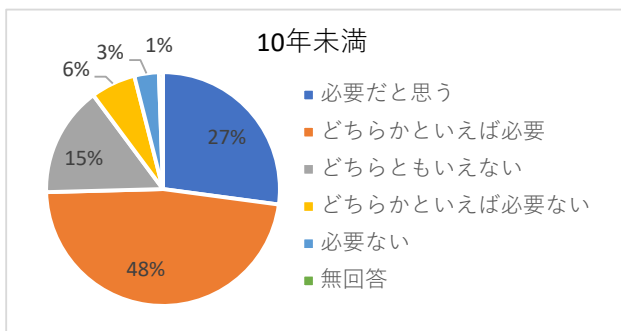


「必要だと思う」「どちらかといえば必要」と答えた人の割合はほとんどの年代が75%を超えており、高い割合を占めていた。

年代によってそれぞれの割合は異なるが、多くの人々が地域のつながりを必要であると認識していることがわかった。

問6：地域のつながりは必要だと思うか×問3：居住年数

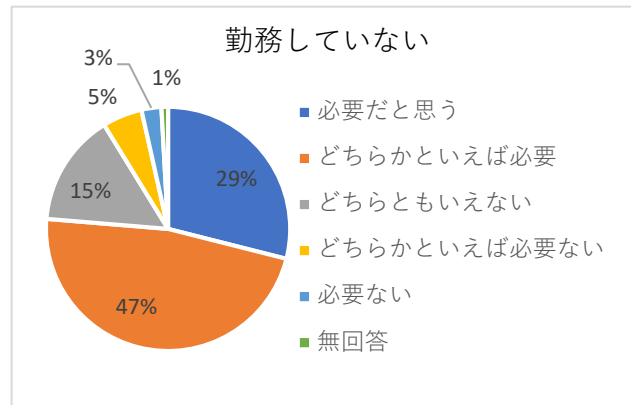
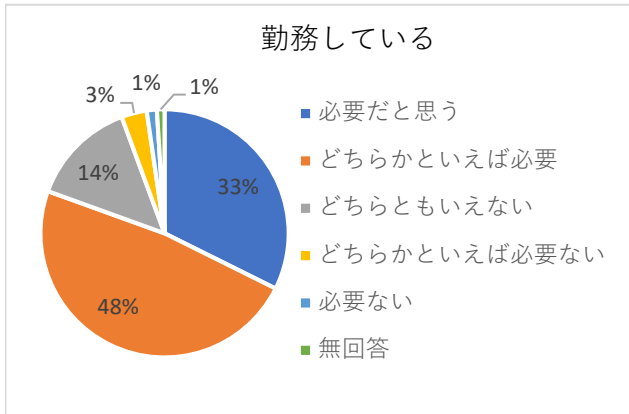
問3 \ 問6	必要だと思う	どちらかといえば必要	どちらともいえない	どちらかといえば必要ない	必要ない	無回答	合計
10年未満	48	84	27	11	6	1	177
10～20年未満	39	56	15	3	0	2	115
20～30年未満	16	35	6	0	1	1	59
30～40年未満	18	16	7	0	0	0	41
40～50年未満	5	9	5	2	0	0	21
50年以上	5	2	0	1	0	0	8
無回答	0	0	0	0	0	1	1
合計	131	202	60	17	7	5	422



「必要だと思う」「どちらかといえば必要」と答えた人の割合は居住年数が40～50年未満の人たち以外で75%を超えている。その中でも10年～40年未満、50年以上の人たちは8割を超えている。居住年数が長くなるにつれて地域のつながりの必要性を感じやすくなるとはあまりいえませんが、全体的に地域のつながりの必要性を感じていることがわかった。

問6：地域のつながりは必要だと思うか×問4：勤務していますか

問4 \ 問6	必要だと思う	どちらかといえば必要	どちらともいえない	どちらかといえば必要ない	必要ない	無回答	合計
勤務している	98	146	42	10	4	3	303
勤務していない	33	54	17	6	3	1	114
無回答	0	2	1	1	0	1	5
合計	131	202	60	17	7	5	422



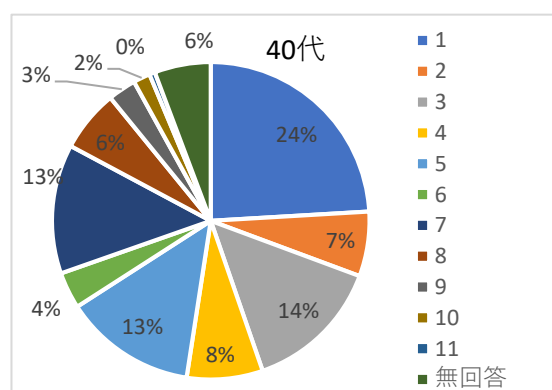
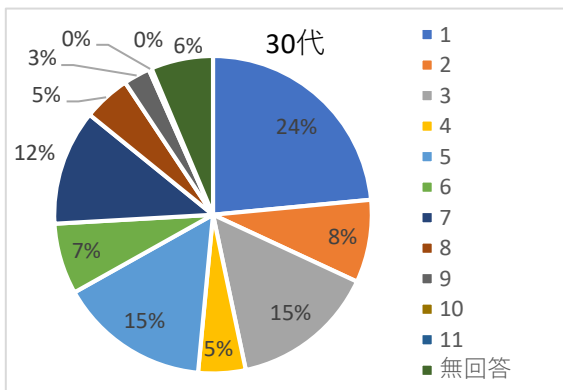
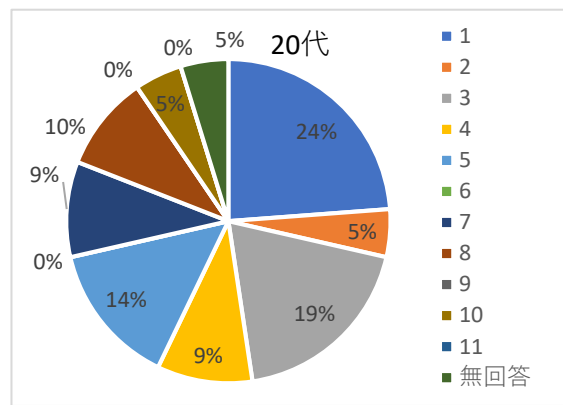
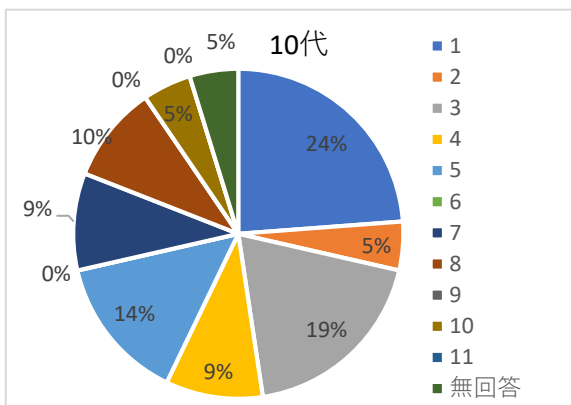
どちらのグラフも「必要だと思う」「どちらかといえば必要」と答えた人が75%以上と高い割合を占めた。

このことから、勤務の有無に関わらず地域とのつながりを必要であると感じている人が多いことがわかった。

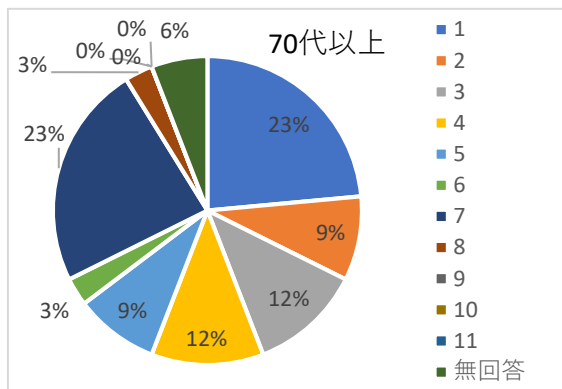
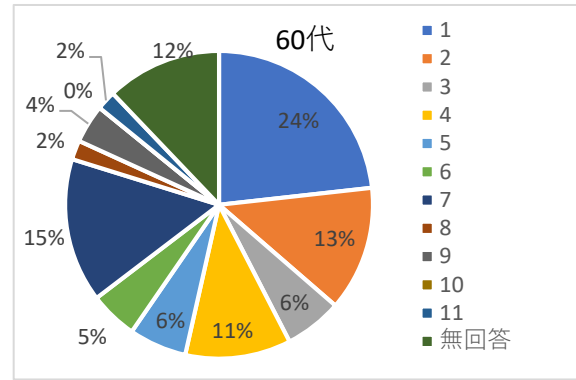
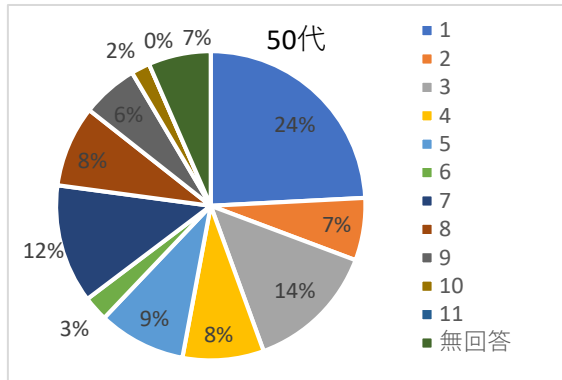
口問7（地域のつながりは必要だと考える理由）の回答をクロス集計により分析

問7'：必要と考える理由×問1：年齢

問7 問1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計
10代	5	1	4	2	3	0	2	2	0	1	0	1	21
20代	23	7	17	12	18	4	13	7	2	0	0	12	115
30代	78	28	49	16	51	24	39	16	9	1	0	21	332
40代	84	23	49	27	47	13	46	22	10	6	2	20	349
50代	37	10	21	13	14	4	19	13	9	3	0	10	153
60代	23	13	6	11	6	5	15	2	4	0	2	12	99
70代以上	8	3	4	4	3	1	8	1	0	0	0	2	34
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	258	85	150	85	142	51	142	63	34	11	4	79	1104



1. 災害等いざという時の助け合い 2. 防災・防火活動 3. 防犯・交通安全活動 4. 一人暮らし等の高齢者の見守り 5. 地域での子育て支援 6. 祭りなどの行事や伝統文化の継承 7. ゴミ集積所・草刈り・清掃など地域環境維持・改善 8. 職場・学校以外の交友関係の構築や居場所づくり 9. 生活上の悩みや困りごとの相談 10. 住民の暮らしのニーズのとりまとめ 11. その他

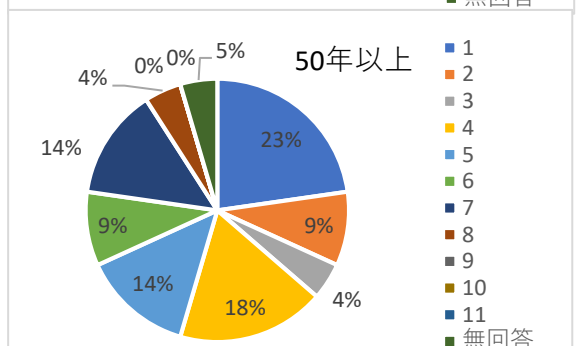
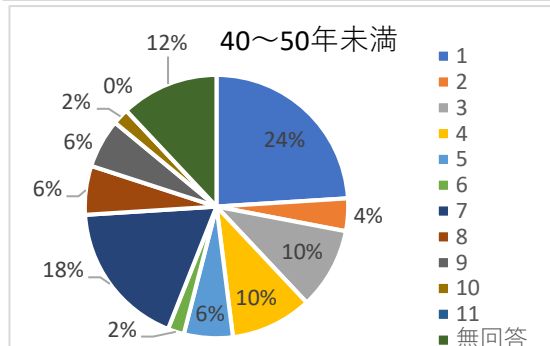
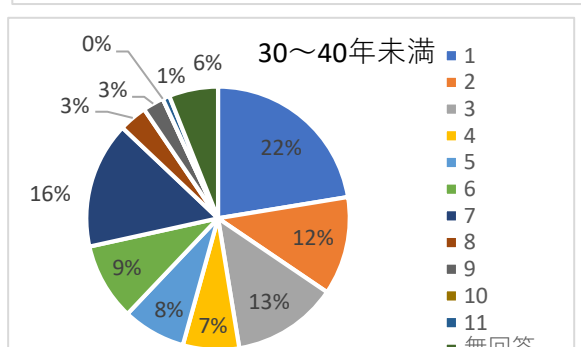
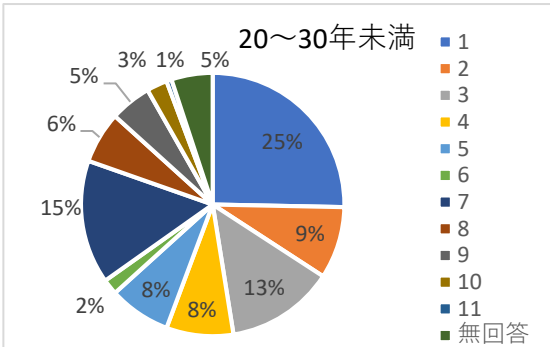
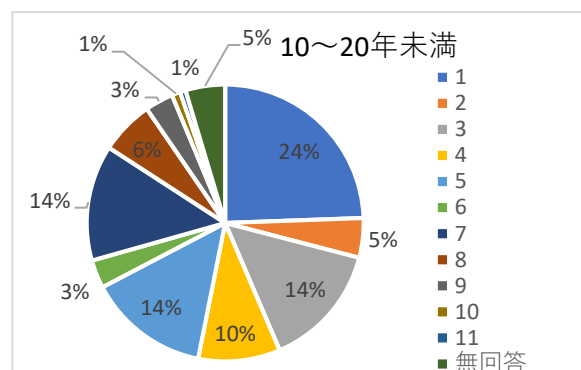
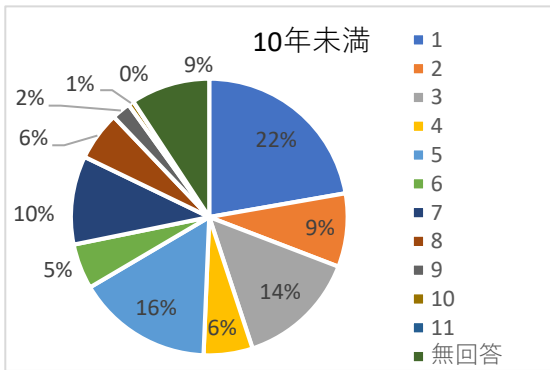


どの年代も①の「災害等のいざという時の助け合い」の割合が最も多く、それに次いで③や⑤、⑦の割合も比較的高かった。

70代以上では他の年代に比べて⑦の「ゴミ出し・草刈り・清掃など地域環境の維持・改善」が高かった。

問7'：必要と考える理由×問3：居住年数

問3 \ 問7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計
10年未満	101	39	64	26	72	24	47	26	10	3	0	42	454
10～20年未満	74	14	44	29	43	10	41	19	10	3	2	14	303
20～30年未満	40	14	21	13	12	3	24	10	8	4	1	8	158
30～40年未満	26	14	15	8	9	11	18	4	3	0	1	7	116
40～50年未満	12	2	5	5	3	1	9	3	3	1	0	6	50
50年以上	5	2	1	4	3	2	3	1	0	0	0	1	22
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	258	85	150	85	142	51	142	63	34	11	4	79	1104

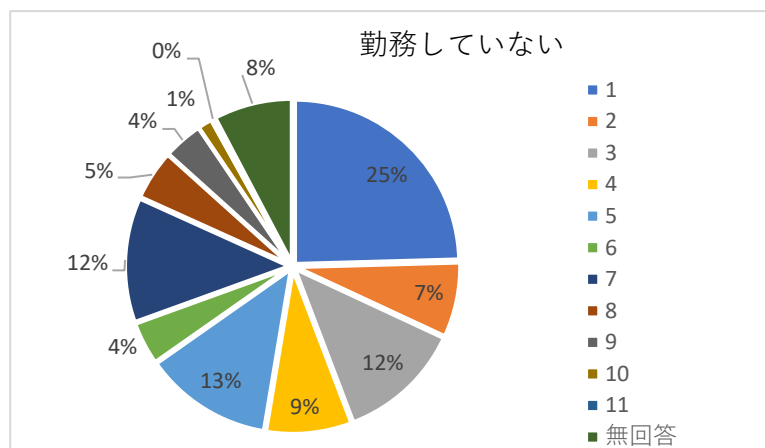
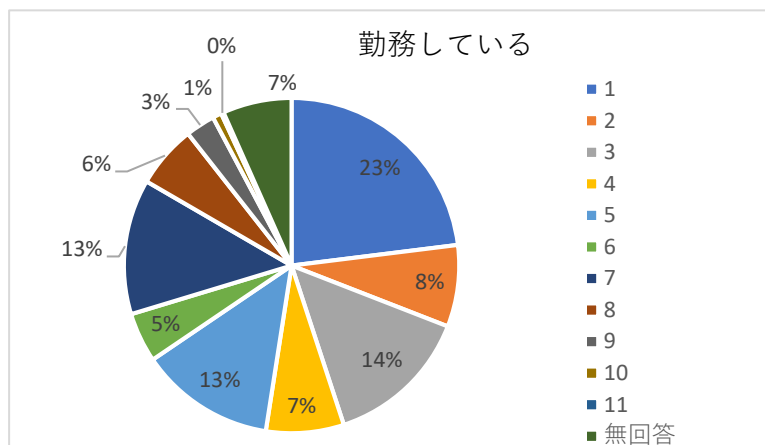


すべての居住年数の区分で①の回答が最も多く、居住年数問わず「災害等のいざという時の助け合い」が必要であるという意識が高いことがわかった。また、40～50年の人たちでは⑦の選択肢が他の区分と比べて18%と高くなっている。

1. 災害等いざという時の助け合い 2. 防災・防火活動 3. 防犯・交通安全活動 4. 一人暮らし等の高齢者の見守り 5. 地域での子育て支援 6. 祭りなどの行事や伝統文化の継承 7. ゴミ集積所・草刈り・清掃など地域環境維持・改善 8. 職場・学校以外の交友関係の構築や居場所づくり 9. 生活上の悩みや困りごとの相談 10. 住民の暮らしのニーズのとりまとめ 11. その他

問7'：必要と考える理由×問4：勤務しているか

問4 \ 問7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計
勤務している	187	64	114	61	106	39	106	49	23	7	2	54	812
勤務していない	70	21	35	24	36	12	35	14	11	4	1	22	285
無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3	7
合計	258	85	150	85	142	51	142	63	34	11	4	79	1104



勤務の有無で見たところどちらも①の「災害等のいざという時の助け合い」が最も多かった。

どちらも似たような確率になったため、これらの結果から見て勤務の有無は必要と思う理由にあまり影響しないことがわかった。

1. 災害等いざという時の助け合い 2. 防災・防火活動 3. 防犯・交通安全活動 4. 一人暮らし等の高齢者の見守り 5. 地域での子育て支援 6. 祭りなどの行事や伝統文化の継承 7. ゴミ集積所・草刈り・清掃など地域環境維持・改善 8. 職場・学校以外の交友関係の構築や居場所づくり 9. 生活上の悩みや困りごとの相談 10. 住民の暮らしのニーズのとりまとめ 11. その他

口問8：（問6で①または②と答えた方）今後、地域のつながりを守り、育むためには、どんなことが必要だと思いますか。また、どんな工夫や仕掛けが考えられますか。あなたのご意見をお聞かせください。（自由記述）

挨拶・声かけ・人との関わり・コミュニケーション

- ・コロナ禍でもあり、コミュニケーションをとれる機会が少なくなっていることもあるが干渉されたくない人も増えているので難しいと思います。
- ・挨拶の習慣をつけること。地域の清掃活動は親がおこなっています。なので、親世代の人たちは少し地域のつながりがあるように思いますが、子供世代（特に中高生、大学生、新社会人の世代）はつながりがないのでこの世代が繋がれる企画があればいいなと思います。小さい時はよく遊びましたが、中学生ぐらいから話す機会がなく疎遠になりました。
- ・挨拶。知らない人でも挨拶をし合える環境づくり。
- ・町内会の集まりや催しは年々なくなっていきます。顔を合わせて何かをすることは年2回の美化作業のみ。自分の街を好きになるきっかけがありません。
- ・日々挨拶などを通してどのような人が近所に住んでいるかなどお互いが把握しておき、困ったときは助け合える雰囲気を作っておくことが大切。
- ・どれだけデジタルになったとしてもやはり人と人が直接話したり触れ合ったり繋がり、意見交換は大切だと思う。コロナで密になるのがダメな時はオンラインでも顔を合わせるのがベスト
- ・挨拶をする。
- ・地域の連絡方法
- ・地域の人との会話を広げる（顔を覚える）
- ・コロナ禍ではなかなか感染リスクを考えると開催するのも難しい。対策も検討する必要があるがサロンの開催には同じ境遇にある人々の安心に繋がり孤立することもふさげる。普段からのつながりがあれば、何かが起こった時でも助け合いにつながると思う
- ・日頃からの挨拶、声かけが大切だと思います。子育ての導入として子育てとサロンは有効と感じました。
- ・普段からの挨拶による声かけ。
- ・たまに交流。スケジュール調整大変だと思うが。
- ・住んでいる人の把握。訓練。昨年、自治会の班長として地域の方を少し接する機会があった。よかった。
- ・梅田町のように若い人が多い町では、直接顔を合わせる付き合いよりもまずはスマホなどの間接的な方法でつながって地域への愛着を育てていく方法があればいいのではと思います。
- ・道ですれ違う時などに挨拶する。
- ・自治活動への積極的参加を通じて、地域のコミュニケーションを高める。自分の知見を多くの人と共有、伝承したい。

- ・「つながりクラブ」を作ろう。家庭訪問ウェルカムな人を募ってリストを作成し、役所が取りまとめる。「いつでも誰でも、うちが暇だったら10分程度玄関先での雑談ならきてくれてOK」と言う人。いく人も防犯面で会員制。回る人も自分のため（地域情報を知りたいなど）
- ・町内の班での話し合いの場を増やしていくと良いと思います。
- ・挨拶をかけ合うこと。少しでも顔見知りになれば。いざという時も助け合える。地域の行事に積極的に参加していくことも重要。
- ・住民同士で名前と顔が一致することが重要。どこの世帯の子供かわかることも必要。個人情報との関わりもあると思うがある程度の情報がないと関係構築は不可能だと思います。
- ・挨拶が一番のコミュニケーションをとるのに大切なことだと思いますし、気持ちの良い挨拶の輪が広がるのが安心安全な地域づくりになると思います。一人暮らしの高齢者が参加しやすい町内の行事が増えることはとてもいいことだと思います。
- ・コミュニケーションができていないと話すことが難しいので公園に来られた方や散歩をしている方とあいさつをし、なるべく顔を知ってもらう。なるべく自分から話しかける。
- ・交流があればいいなと思う。困っている人が助けてと言える場所が身近にあれば。
- ・顔を合わせた時にはあいさつをすること。
- ・地域とのつながりだけではなく、行政、消防、警察等公的機関との顔の見えるつながりが必要だと思う。
- ・ご近所との挨拶で顔を合わせる。
- ・普段からの挨拶や声かけなどを自主的に実施しています。特に近所の高齢者の方と会話をする様にしています。
- ・普段からのコミュニケーション
- ・マンション内で出会った時には、常に挨拶を交わし顔馴染みになっておくことが必要
- ・結局のところ、友人知人からの声掛けが大事かと思う。もっとも、プライバシーとの兼ね合いがあり難しい
- ・挨拶をするなど、顔見知りを増やしていく。
- ・挨拶からはじめる環境づくり
- ・日頃、出会った時のあいさつから始めて行き、少しずつ地域との信頼、繋がりを作っていくといいと思う。
- ・住民1人1人が近所の住民に積極的に挨拶をしたり話したりするなどしてつながりを作ること
- ・なかなか初対面では難しいかもしれませんが、すれ違っただけでも、挨拶を活発にしていけるといいと思います。
- ・自治会主催の行事への参加と近隣同士の付き合い方を深め、日々の生活を通しての情報交換を通して人間関係を深めていく
- ・自分が守山市に転居して3年になるが、全く知らない土地でかつ面識のない方々ばかりなので万が一の有事の為にも町内会などの行事に積極的に参加すべきと考える。

- ・日頃から挨拶できる関係性が必要だと思います。そのため、ゴミ拾いや掃除等の地域の活動が今後も必要だと思います。
- ・ご近所方との挨拶、ご家庭の把握など
- ・おしゃべり会や地域のつながり、交流で、親交を深める。

新居住者に対して

- ・新しく転居された方々の交流、地域へ馴染む働きかけ、やり方によって、押しつけにならないように配慮が必要だと思います。

高齢者・若者

- ・子育て世代は共働き家庭がほとんどで日中は不在な家ばかりです。いざ災害が起きたときは高齢者ばかりでは何かと困ります。日頃から声かけをできるサポーター等近所の中高生や主婦等に行政からお願いしたり、見守り等の活動の仕事もしたらいいのではないかと感じます。
- ・私の家に認知症の祖母がいます、少しずつ進行しています。近所の方々も知っておられますが、「家に勝手に入ってくる」「二階のソファに座っていた」「ナイフを持っていた」「怒ると怖い」「管理して紐で括っておけ」など聞きます。「いつ認知症になるか自分たちもわからないけど」と近所の人はおっかけてますが、認知症はやはりなりたくない病気、迷惑はかけないようにとは思いますが、近所からの声を聞くとしんどくなります。
- ・若者層が参加しやすい工夫。啓発。
- ・大人世代、子供世代それぞれが繋がり、地域を育てていくことが必要だと思う。
- ・若い世代の関わりが少ないと思う。子供会などで親がほぼ同世代同士の関わりがあっても、世代の違う者達が気軽に集う所が無く、助け合える環境作りが必要なのではないか？子育て相談、高齢者の相談等気軽に聞ける環境を専門的に話せる場所、人を身近に置く事が出来ないだろうか？と思っています。
- ・趣味、娯楽等の集いが、もっと若い人や働き盛り世代にも気軽に参加できるようになれば、交流が活発になると思う。
- ・若い世代の方も気軽に参加できるような自治会活動を考えて欲しい。古い決まり事ばかりだと中々地域に参加しにくいと思うので。

市・自治会

- ・自治会に全員参加すること。そのためには自治会に入ってよかったと思われるような魅力ある行事を作り出すことが大事だと思います。自治会間の成功例の報告会があれば良い
- ・民生委員の役割の充実、町内誌の充実。

- ・課が違いますが、3月から5歳から11歳へ治験中のワクチン接種が始まりますが、2021年からの1300件以上の因果関係不明の死亡が現実の中で、小さな子供に接種する不安があり、せめて子供たちの接種にはデメリットも注意喚起したチラシを同封してほしい。ワクチンでは感染が防げないことが事実。ワクチン接種の有無によるお店、学校などで差別がないよう守山に住む人々が安心して暮らせるようお願いしたいと思います。
- ・ゴミ集積所のマナーを守らない人がいるので、それには厳しく対処することが必要なのではないか。直接言うことが難しいのかもしれないがその時は市の担当者との協力もあってもいいのではないかとここ最近特に考えている。
- ・情報交換、地域で起こっている出来事を知りたい。
- ・市の広報誌をポストに入れていただけると催しや行事を把握しやすい。（駅や市役所に行ってもらうのは面倒なので）
- ・今その地域のニーズをタイムリーに把握し直ぐ対応できるシステムを作る。例えばSNSでの情報の収集、その情報が他の人に見える容姿のホームページでも確認できるようなシステム作り。また、対応・対策の経過を見える化し迅速な対応ができるようにする。
- ・自治会活動に昔からのルールがあり、参加するのが大変そうと言うイメージがある。色々と受け継ぐことも大切ですが、新しい人が入りやすい雰囲気づくり、仕組みが重要だと思います。初めての人でも参加しやすそうだなと言う気持ちを持てるようにしていく必要があると思います。
- ・SNSを活用した情報共有。（いつでも気軽に都合のいいときにチェックできるから。）
- ・運営体制の合理化・近代化（デジタルルーツの活用など）必要に応じて古い規則の改変。
- ・世代間格差があるので、その溝を埋める機会や場所が常に稼働していることが望ましい。
- ・自治会への加入と活動への参加
- ・自治会長や自治会へ意見、要望を伝えやすくする事が必要だと思う。自治会館に意見BOXの設置。
- ・掲示板を作成し意見をまとめて多数決で決める様な自治会があれば無駄な時間が省けて良いかと思います。色んな考えがあるとは思いますが。またネット等利用できない高齢の方へはボランティア等で使い方を教える等で異なる世代同士で繋がれる事もあるかと思います。例えばWi-Fiの繋ぎ方を教える代わりに畑のお野菜を貰うとか、、、
- ・高齢者や子育て世代対象のサークル等の対象者を絞った活動だけではなく、それ以外のカテゴリーの人(子どもがいない人・子育て終了した人)や高齢者とまでいなくても定年退職まもない人等の地域での集団に属しにくい人達も含めた、属性に関わらず誰もが気軽に立ち寄れる場を市等の公的な機関が定期的に提供するというのも今後良いのではないかと思います。
- ・コロナの影響はありますが、対面なりモニター越しなりで顔を合わせて話す機会が必要と思う。行政側でその場を作る周知(掲示しているとかHPに掲載してるは周知にならない)出来るといいかと思う。

- ・草刈りをやめて除草剤をまく。不急の回覧板は廃止する。必要なことだけ町内会費を使う
- ・面倒な自治会の作業を効率化すべき
- ・自治会館の有効活用。リタイアされた方が主体となるような取り組みと、気軽に参加できる会(例えば学童や習い事のような)があればいいと思います。
- ・IT技術と情報インフラを用いて、各区内の住人間の連絡網構築。また、医療機関や様々な商業施設、公共交通機関とやり取り出来る情報網の構築。
- ・自治会役員は、現役世代と年金世代に関係なく順番で当たることになっているが、これが時間的に制約のある現役世代が自治会活動に参与することに負担を感じる大きな原因だと思います。よって、今後は必要性の低い役員の廃止や行事を簡素化するなど時代に合わせた見直しが必要かと
- ・必要な情報共有ができる仕組みがあること
- ・繋がりが持てる場を増やしていく
- ・ゴミ袋を無料にして欲しい
- ・回覧板のデジタル化、オンライン町内会、町内会費回収のデジタル化、自治会単位での住民基金（ファンド）設立と定時定額積立投資の運用益による定期収入確保、自治会館や公園を活用した祭りや文化イベント運営による営利活動の許可と経済的自由裁量枠の創出、商店や企業とタイアップした自治会単位での地域ブランド化の自由化、フィアレスシティ、ビアカンペシーナ、エディブルシティ、アーバンアグリカルチャーなど世界的市民活動ネットワークへの自治会単位での参加と交流、自治会単位での文化的取り組みをまとめた書籍や映画など文化的活動の作品化と発表及び交流
- ・自己紹介の回覧板などあれば、話したことがない方も親しみがもてると思います。
- ・自治会の若年層の取り込み、社会人になってからでは時間が取りづらいので子供会等で学生時代から地域住民と話ができる環境があると良い。また時代的にも終身雇用ではなく転職が当たり前となっているため転居者が多く、特にアパート等では自治会費は負担するのに参画はしないという形式が増えている。その原因の一つには閉鎖的なコミュニティも考えられ、参加したい人はできるように参加しやすい環境づくりも必要ではと感じられる。
- ・自治会が面倒 もっと簡素化して欲しい
- ・コロナのせいかもしれませんが、公園で親子2人だけで遊んでいる姿を見るようになりました。難しい時期だけど何かサポートがあればいいのにと他人事ながら思っています。

施設・設備等

- ・息子が生まれて民主議員さんがプレゼントと声をかけてくださって嬉しかったです。町内の取り組みもプリントがポスティングされ、参加がしやすかったです。絵本の読み聞かせ（えほんの広場）や、あまが池の子育て中の人に参加できるもの等、いろいろあるので子育てしやすい環境であると感じます。ただ、公園に行っても子供がいないのはなぜ？焰魔堂町やふれあい広場には人が多く、地域の小さな公園では少ないのが残念です。駅前広場や公園がいつも綺麗なことが嬉しかったです。

- ・公園で遊ぶ時のルールが厳しく（ボールダメ、騒ぐのダメなど）、なんでもダメになると、全然自由に遊べない。近所や地域の公園で子供が自由に遊べるよう広い心を持った大人たちが見守ってほしいです。
- ・二町町は件数も多いので繋がりも薄れてきていますが、私のご近所は13件の組で20年以上前から一年に一度食事会をして繋がりを持っています。なんでも色々なことが話せる場所が必要だと感じます。
- ・みんながインターネットを使えるわけもなく、パソコンなどを持ってない家もあると思います。いざという時の連絡、色々なお知らせが行き届かないことがあると思います。普段からお会いした時挨拶プラスαがあれば少しでも繋がりを持てると思います。
- ・オンライン化にして家でも話し合いに参加できる仕組み（オンラインに慣れていない高齢の方々は会館に集合）。街灯がなく不安に思ったり、危険な道が多いため街灯を設置してほしい。住宅街や団地を抜け道に使い速度を出す車が多いので標識やスピードバンプの取り付けを行う。
- ・年代別で趣味やスポーツをどの世代も楽しみやがら健康的にできる施設を作ったら地域の人が自然と集まって楽しくなる施設があれば楽しくなると思います。子どもも学校以外でも集まれる場所があれば楽しいと思いました。
- ・自然に人々が集まることができる施設などの設置(広い年齢の人が集まることが出来るようなもの)

地域での子育て

- ・年齢ごとによって工夫が必要だと思います。子育てをしているので、子ども会ほっとステーションを利用し、暖かさを感じます。ただ、子供を産む前の20代後半ではなかなか「地域のつながり」を感じる場所やきっかけがなかったように思います。それぞれの年齢ごとの工夫や仕掛けがあるといいなと思いました。
- ・梅田町はマンションが多く、また子育て世代も多い。子供の活動を中心にさまざまな世代と繋がることできると思う。
- ・小学校の時、見守りの大人の人たちに助けられた。これからも続けてほしい。
- ・挨拶が自然とできる地域づくりのために自分は必ずあいさつをするようにしています。なかなか難しいと思うのですが「子供は地域みんなで育てる」と言うことが感じられるような工夫がもっと必要だと感じます。「子供の居場所づくり」のようなことがあり、必要であれば自分もボランティアとして参加したいと思います。
- ・子供たちの安全のために、消えかけている横断歩道のラインを引き直してほしい。
- ・子育てにやさしい街づくりをしてほしい。保育園のご飯の持参ではなく、給食で出してほしい。給食のごはんの容器も持参ではなく、給食で揃えてほしい。
- ・子育て世帯が多い学区だとは思いますが、実際に同じ団地に何歳の子が何人いるとか、高齢者がいる家があるとかいう情報が得られにくい。昼間は仕事をしており、通っている保育園も同じ学区の子ばかりというわけではない、

さらにコロナの影響で近所の人と話す機会も少ない。話す機会が少ないと直接は聞きづらい情報もある。個人情報の保護も必要ではあるが、せめて回覧板を回している範囲の各家庭には未就学児が何人、小中学生が何人、大人(30代、40代、70代等)が何人いるという情報の共有ができるようにすることが必要だと思う。その方が災害時の助け合いや高齢者の把握がしやすい。また、そのような情報があれば子育て世帯は繋がりやすいと思う。

- ・子どもが2人います。ほほえみセンター、勝部神社の子育てサロン、勝部火祭り会館のちょこっとカフェなどを頻繁に活用させていただきました。子どもが幼少期にコミュニティに参加する経験をもっと増やしたいです。
- ・小中学校の教員の育成と質の向上
- ・子供が犯罪に巻き込まれないように事故にあわないようにと強く願っています。信号、ガードレール、防犯カメラできるだけ多く設置してほしいです。

災害時に向けて

- ・賃貸マンション暮らしのため地域のつながり等参加する機会がなく、ただ災害等は必要性を感じます。
- ・さまざまな事態を想定した防災訓練、定期的な防災訓練
- ・現在自治によっては、単身の家族や独身の一人暮らしがとても多く、防災、防火などの自治消防活動も必ずしもつながりとは言えない。学校では防犯メールなどあったが住民に対してのそういったものがあってもいいと思う。
- ・災害時を想定しての避難訓練を定期的にするべきだと思います。
- ・年2回の一斉清掃は、近隣班同士の助け合い意識が高まり、環境改善もできる大変意義のあることだと思います。折角の年2回の機会なので、災害時の避難場所や、備蓄品などについても近隣で共有できればよいのではないのでしょうか。
- ・町内で防災講習会などを行い地域で心配される災害被害を想定しながら災害時の対応や平常時から出来ることを話し合う
- ・地震火災などの時のために地域ですぐに連絡を取り合うようにつながりを持つておくことが必要。常に隣近所でどんな人が住んでいるか把握しておくべきだと思う。

イベント・行事

- ・ イベントなどをして、交流の場を作る。（オンラインを使用したりなど）
- ・ 次世代を担う子どもたちに高齢者が1竹とんぼづくり 2水鉄砲づくり 3万華鏡づくり 4折り紙 5お手玉作りなどを教えることを自治体が街づくりの一環に取り入れてもらったらいいのではないか。
- ・ 子供に関する行事の開催。それに伴う運営と積極的な参加。
- ・ 負担感のない自治会活動やPTA、子供会活動
- ・ 小学校等の道路の見守り。（現在されているが続けてほしい）今はコロナ禍でなかなかできないが、色々な街の祭りや行事があれば楽しいのでおこなってほしい。草刈りや掃除が年配者が多い。
- ・ コロナ禍もあり容易ではありませんが、イベントによる交流促進。ソフトボール大会、ゲートボール大会、フットサル大会、読み聞かせ会、料理教室、昆虫鑑賞会など世代を超えてコミュニケーションが計れるイベント開催。
- ・ 家族全員で参加できる行事。
- ・ ボーリング大会などで親睦を深める。
- ・ 行事や清掃活動等を通じて子どもや親、地域の方々が参加する中で顔見知り人里、世間話や挨拶等の会話をすることが必要とされる。そういう大人の姿を子どもたちに見せていくことが必要だと思います。仕事をしながら、1人親等、色々な家の事情はあると思いますが、まずは参加して楽しいと思える体験や、参加してよかったと思えるような工夫や仕掛けを（お祭り、運動会、廃品回収など）考えていくのはどうでしょう。
- ・ お祭りや行事など地域住民と一緒に目的をもって取り組みを作り上げていくこと。
- ・ 挨拶。子どもや高齢者の見守り。地域行事。清掃などの参加。
- ・ 家族で参加できるイベント（日帰りバス旅行など）
- ・ 住民（特に若い世代や子供）が参加したくなるような工夫やイベントの開催。地域のつながりによるいい事例をアピールする（必要性やメリットの提示）
- ・ 地域を良くするには住民が参加し顔見知りになる活動が必要だと思う。地域の一員と認識し、参加することで地域の（人間関係や景観など）環境が良くなっていると実感できることが大切。行政からの支援があると取り組みやすいと思う。
- ・ 普段から顔見知りなどにあいさつ等をし、適度に話せるようになっておく。謎解きで地域を巡る。地域に関わるクイズを謎解きの問題を作る。地域のお年寄りから昔ながらの遊びを教えてください。
- ・ 地域イベントの開催
- ・ 1年に1回、なるべくみんなが集まれる班会を開き、顔合わせをする。
- ・ 参加しやすい子育て支援イベントの開催。健診の後に希望者へ交流の場を設けるなど。
- ・ 行事を増やしてコミュニケーションをはかる。
- ・ 地域のお祭りなど地域住民同士で何かを作っていく事でつながりなどが深く出来るのでは。

- ・コロナ禍の中で中止になったイベントの引き継ぎをうまくやること。また、一人暮らしの高齢者の手伝いや訪問などは、やる気はあっても、どこにニーズがあるのか分からず、とっかかりが掴みにくい。コロナ禍においても、特に2020年の夏あたりは、地域ボランティアの需要がありそうな気はしていたが、具体的な行動は取れなかった。（私は大学生で、夏休みは割と暇していた。）ボランティア制度が整っていたらやりやすいと思う。また、田植えの時期などに、農業体験ができるイベントがあったら、参加してみたいと思う。
- ・町内会活動の活性化、イベントの開催
- ・地域で行うイベント、行事
- ・コロナ禍で、お祭りなどイベントが出来ない中、従来より、繋がりの方が減っていると考える。バーチャル空間での地域のお祭りやイベントを企画など、コロナ禍でも参加しやすいものがあると良いと思う。
- ・子育て世代に向け、子供が積極的に参加できる催しなどを企画することで、親子で地域に関わる大切さを育む必要があるように思う。
- ・個人の予定が妨げられてしまうと思われない様な活動支援などかな？
- ・子どもが小学生のころは子ども会活動を通して必然的に地域とのつながりがあったが、成長するとともにつながる機会がなくなった。そのような世帯でも子ども会活動にボランティアなどとして参加できる機運を高めていくべきだと思う。
- ・子供が小さい頃から色々な行事に参加して、地域の方と交流することが必要。
- ・大人や小学生までの子どもはイベント等で地域内の交流がありますが、中高生が参加しやすいものではなく、あまり地域のつながりを感じられません。もちろん部活や塾で忙しいこともありますが、高齢化や核家族化が進み、一層地域での支え合いが重要になる今、将来のつながりを守るという観点からも、中高生の地域への参画は重要だと思います。例えば大人のサポートのもと、中高生主体でお祭りに出店したり、またコロナ下では地域清掃に中高生が参加しやすいよう呼びかけるだけでも、ソーシャルディスタンスを守った活動ができるので良いと考えます。
- ・市内施設を活用し、子供たちがスポーツ大会・イベントフェスティバルなど、県内・県外問わず集えるもの企画が必要
- ・人は人、と思わず、少しのことでもいいので他人に関わることを大切にしていくことが大事だと思います。子育てにおいて色々なイベントが開催されたり、とても助けられています。
- ・一人暮らしで隣にどんな人が住んでいるかわからない状態。なので、行事等での地域のかかわりが必要
- ・お祭りや行事などのイベント（今はコロナで難しいと思いますが）
- ・地域で安全に安心して暮らすには、地域住民のつながりが必要だと思います。しかしながら従来の運動会や納涼祭、老人会、敬老会では一部の人にかかなりの時間的負担もあり、参加者も決まった人達のみ感じもします。目的に沿ったコミュニティをいくつも持ち、それぞれにあったものに参加しながら、全体をまとめていくようにする必要があるのではと思います
- ・地域の人達が気軽に参加できるコミュニケーションの場の確保(今は中々難しいですが、)

ご近所付き合い、集合住宅

- ・清掃など地域で共同作業をすることが大切だと思えます。
- ・転入者の紹介、挨拶
- ・新しく守山に住む人へのフォローが不足しているように感じます。コロナの環境を踏まえ、web等を活用したイベントがあればありがたいです
- ・各班隣近所単位でのコミュニケーションが増えるような行事があると良い。美化運動などはそのひとつだと思う。
- ・隣り近所同士が普段からコミュニケーションをとって、何かあった時に助け合えるようにしておく必要がある。
- ・子どもを外で遊ばせながらの近所の方との井戸端会議が私にとって地域とのつながりが広がっていくきっかけとなりました。今でも、顔を合わせると近況を報告したり大切な時間となっています。
- ・一人暮らしが集まって住めるシェアハウスとか
- ・隣近所のつきあい方だと思う
- ・近くに住んでいる方々との交流ができる場があれば参加したいです。

わがまちミーティング

- ・世界はいろいろな意味で変化していて、環境の変化はとても大きいものになっている昨今は地域のつながりがとても重要と認識しています。これは人と人の繋がりだから「わがまちミーティング」に参加したいと思っていましたが、コロナが広がっているので参加を断念しました。
- ・参加せざるを得ないような呼びかけをする。
- ・日頃からの訓練が必要だと思われませんが、コロナや仕事、プライベート等でなかなか集まることができない現状がある。
- ・塩谷学校で地域の人と交流できる行事を行う。お祭りや伝統行事を行う。
- ・まずは隣組などの10分前後（隣近所）で親しく接し、その中でコミュニケーションを築いていくことが重要であると考えています。
- ・メールを有効活用し、配信頻度をあげてもらえると助かります。

その他

- ・地域だけの活動維持が難しくなっているように思います。
- ・コロナが落ち着くまでは何も言えない。
- ・個人のプライバシーを尊重しながらも最低限の繋がりがある地域が理想です。
- ・今の地域で言うならば現状維持。若い方のいろんなつながりが減りそうだが頑張って維持されてれば良い。
- ・繋がっても安心であると言う気持ちを作ることが大切。

- ・問7の課題が、必ずしも地域のつながりによって解決できると思わない。民間企業の介入や行政サービスの向上も必要と思う。地域のつながりは大事だが、守り育まないといけないという結論に疑問を感じた。
- ・余計な事ですが、「返信用封筒」は入っていません。入れ忘れですか？
- ・特になし。今のままで良い。
- ・まずは現状を維持することが必要だと思います。
- ・地域そのものの魅力化アップ。地域に対する愛着が湧くことが、地域のつながりを守り育むことにつながると思います。
- ・守山に長く住むつもりはないので分からない
- ・ライフスタイルや価値観の多様化が進む中、昔のような地域のつながりを期待するのはナンセンスではないかと思う。一方で快適に生活するために地域の環境を整えないといけないのは事実であり、そのために協力しないといけない。必要以上に「つながろう」とするのはではなく、環境整備のためにやるべきことを明確にし、そこで協力しあえる体制を築くのがよいと思う。
- ・私の場合は、まず自分自身の意識改革から始める（今迄あまり行事に参加してこなかったから）
- ・地域の繋がりが希薄でも、不便さや違和感を感じていない人も多いと思います。地域との繋がりが、自分達の生活にいかに必要なか、実は地域の繋がりがあるから自分達の生活が支えられている、など必要性を感じさせることが必要ではと感じました。
- ・新興住宅で子どもたちも自立し、引っ越し等で自治会から転出、転入する人が少なく、自治会会員の少子高齢化が進んでいる。コロナで自治会活動も縮小気味。
- ・現代の地域の繋がりに期待していないので、何とも言えない。うちのうち、他所は他所という家庭が多いので。
- ・個々人を尊重しつつ、自分の住む地域は自分達で守る緩やかな連携。
- ・わかりません。が回答です。人それぞれ基準、価値観、考え方、家族でも違うのに他人とは異なることも多いと思います。全員がまとまって同じ方向に向かうのは無理だが少人数でも近い考え方の人が集まって何かする事は可能なのかな？
- ・思いつきません。
- ・個人個人の出来ることしか出来ないのだから個人の出来ることをすると良いと思う
- ・高齢者世帯、子育て世帯、独身世帯と色々あるので難しいです。具体案が見つかりません
- ・重度の病気や障害によって、閉じ込められている人の話にもっと耳を傾けてください。統計の枠外にいる人程、準備することや配慮しなければならないことが多く、検討課題も多岐にわたります。孤立させないでください。